

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



# 南 風

第 5 号

令和 4 年 7 月 20 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

夏休みは誘惑 ～ 夢は叶うか・・・？ ～ (厳しいか・・・?)

(7月18日まで)

(7月19日)

(7月20日)

校長 吉原 誠 士

仕事を進める上で「計画性」はとても大切です。授業をする時には事前に教材について分析をし、さらに生徒の実態を考慮に加えて最適な指導方法を考えます。学校行事の企画では社会情勢も含めて現状分析を行った上で、最も適切な実施計画を立てます。いずれも「ねらい」が最初にあって、それを達成するように工夫を凝らすのです。「やることに決まっているから」と惰性に任せたり、「年間計画に載っているから」などとマニュアルに従うだけだったりというのは、私自身は大嫌いでした。授業を受ける生徒の方も、「目標」をはっきりさせないままで学習を進めていたら実力は身につけません。

夏休みにも、活動の動機や根拠をはっきりさせて計画的に出かける人には敬意を表しますし、休業前から念入りに作戦を立てて、「いざ！」と出発する勇ましさも好きです。しかし、お休みの日にふと「こんなことをしたい」と考えつくことも許されていいのではないのでしょうか。時間がたっぷりある長期休業を迎えて、単純に「そういうことが好き」「こういうものに興味がある」を起点に、様々な体験をしようとするのがあっていいかなと思うのです。もちろん人それぞれ時間的、金銭的な制約はあるでしょうし、他人に迷惑をかけることはしない(できない)のも当然ですが。

まとまった休日を多少衝動的に過ごそうというのは、私が定年を過ぎたからなのでしょう。味覚を求めることが加わったのは年齢の為せるところなのでしょう。ふと頭に浮かぶままに挙げると・・・「卑弥呼が眠ると噂される箸墓古墳を訪れ考古学系博物館を巡り三輪そうめんを食する」、「伊勢神宮を詣で鳥羽水族館を楽しみ松坂牛を味わう」、「山陽新幹線をレールスターと500系新幹線で往復しひっぱりだこ飯を食べる」、「青函トンネルを抜けて函館の街を散策し海鮮丼を楽しむ」、「加賀市の『中谷宇吉郎 雪の科学館』を見学して金沢市で日本海の高産物に舌鼓を打つ」などなど。サンライズ出雲にも乗ってみたいなあ。まだまだ思いつきますが、どこまで成就できるのでしょうか(いや厳しそうだな)。

経験したい、見てみたいでワクワクするような夏休みにしたいものですが(空しいか?)、コロナ禍はそんな楽しみも奪い、行動形態を失わせる困った問題でした(問題です)。「さあ、今年こそは！」と意気込んでいます(これも空振りか)。私は五感総動員主義ですから、タブレット端末を眺めることで旅行が完結するとは思っていませんし、本を読むだけで満足するものでもありません(けれどもそうなるのか?)。現地ですべての感覚器から“受信”し、脳に記憶を“格納”、新学期には土産話を“発信”して大盛り上がりになることこそが望みなのです(夢で終わらせたくない!)。今年の夏は最大の注意を払って、(可能なら)新たな経験を加えられるように過ごすことにしましょう!

追記～ この文章を書き始めたのは先週の月曜だったのですが、感染者が急増して呑気なことを言っていられない状況になりました。新型株の広まりはこれからも予断を許しません。「(斜字体)」は今日付け加えた心の声です。生活面の“上手な”組み立てをお願いします。私は4月に抗体カクテル療法を受け、7月に次の注射をするようにとお医者さんからアドバイスされました。来週三回目のワクチン接種に行くつもりです。